2019
2月20日
発行号

菅直人（かんなおと）の市民政治レポート

■編集発行：菅直人を応援する会 ／ 〒180-0006 武蔵野市中町１-2-9 サンローゼ武蔵野302 TEL：0422-55-7010

「安倍政権退陣」と「原発ゼロ」を実現する年

裏面 ● 選挙は楽しい政治参加の場 / 統一地方選の公認予定候補者

新しい時代の 新しいビジョン

２０１９年、平成３１年が幕を上げて、早くも２カ月近くが過ぎました。５月には新天皇が即位され、新しい元号が施行されます。平成の３１年間はどういう時代だったのかと思いを巡らせているところです。平成は戦争がなかった時代であったことは、本当に良かったと思います。他方、戦後長く続いた人口増と高度成長が大きく曲がり角を迎えて、急激な少子高齢化と経済の低迷が続く時代になりました。

日本の将来に対する新しいビジョンが必要です。いま、平均して子供を２人、孫を４人持てる社会にするにはどうすべきかを考えています。人口規模が日本の半分程度でも安定し、豊かな国民生活を実現している国は多く存在しています。そうした国を参考にして、幸せ度の高い国をめざすべきだと思います。

立憲民主党の誕生から1年余

２０１７年１０月始めに枝野代表が立憲民主党の立ち上げを表明してから１年４か月が経過しました。この間、私は繰り返し「立憲民主党は政治家が集まってつくった政党ではない。このままでは投票する政党がないから『枝野立て！』と声をあげ、２０日後に立憲民主党に投票してくれた１１００万人の国民がつくった政党だ」と言い続けてきました。その原点を大切にして、パートナーズ制度など１１００万人のみなさんが一緒に参加できる政党をめざして試行錯誤を重ねながら進んできた１年余でした。

パートナーズが中心の政党になるために

いかにすれば投票してくれた１１００万人の期待に応える政党になれるかが、この一年の立憲民主党の最大の課題でした。そのためにはパートナーズが様々な形で政治の現場に参加できる仕組みを作ることが大切。第一は政策作りへの参加、そして第二は選挙運動への参加を呼びかけ、試み始めました。

パートナーズ① 政策づくりへの参加

政策作りの一番目に取り組んだのは、立憲民主党が総選挙公約に掲げた「原発ゼロ」の具体化でした。投票してくれた１１００万人の大半は「原発ゼロ」に賛成のはずです。そこで総選挙直後に党内にエネルギー調査会を立ち上げ、「原発ゼロ基本法」の原案作成に取りかかりました。そして出来上がった原案を発表し、全国各地で原案に対する意見を聞く会を開催して、２０会場で延べ２０００人の方に参加いただきました。その中には小泉元総理が顧問をしている原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟との懇談も含まれています。

原案には、石油や天然ガスが輸入できないような緊急の場合には残っている原発の再稼働もありうるとしていました。しかし、原発再稼働の口実に使われるから削除すべきという強い意見が各地で出され、削除することになりました。このように、政策作りへのパートナーズの参加の第一歩を「原発ゼロ基本法」案でスタートさせることができました。

パートナーズ② 選挙運動への参加

次は選挙への参加です。パートナーズのみなさんが政策作りだけでなく、選挙でも共に汗をかいてくださることになれば、立憲民主党は本物の市民政党になると思います。この一年余の間に行われた自治体選挙でも、積極的に候補者を応援して下さる方が数多くあり、多くの選挙で高位当選を果たしました。

先日、私の事務所が主宰した「市民選挙講習会」には２０人ほどの方が参加してくれました。選挙運動の第一歩として、まず自分の住む地域で公営掲示板にポスターを貼る作業を拡げたいと思っています。自分が貼ったポスターには愛着が湧くものです。

また、選挙は楽しい活動だということをみなさんに伝えたいと思います。１９７４年、私が２７歳の時に最初に経験した市川房枝さんの参議院選挙では、私の大学の後輩や他校の学生がボランティアでかなり参加してくれて、その後その中から何組かのカップルができたという話もしました。最近の選挙ではリタイア世代の参加も増えています。ボランティアの老若男女が集まることで、世代を超えた仲間ができるのも楽しいことです。全国各地で「選挙に参加しよう」と呼びかけるパートナーズの集会を企画する予定です。

全国そして国会の中での仲間の拡大

昨年の総選挙以降、立憲民主党は全国で県連の立ち上げを急いできました。国会議員が一人もいない県も多い中、比例区の参議院議員に県連会長をお願いするなどして、昨年中に４２の都道府県で県連が立ち上がりました。バラバラに行われる自治体の選挙では立憲民主党として積極的に候補者を擁立し、大半の候補は好成績で当選してきました。

また国会の中でも総選挙後、立憲民主党は仲間を増やしています。民進党時代の仲間であった岡田克也さんなど「無所属の会」メンバーの多くも、一人ひとりの判断で立憲民主党の政策に賛同して統一会派に参加していただき、会派としては衆議院では６８名、参議院では２８名と、両院で野党第一党の座を占めることになりました。

国民民主党との関係

立憲民主党はご存知のように、小池都知事が立ち上げた「希望の党」に合流せずに、立憲民主党として選挙を戦ったメンバーが主に所属しています。野党第二党の国民民主党は小池都知事の立ち上げた「希望の党」からスタートし、総選挙後に民進党と合流してできた政党です。総選挙後、創立者の小池氏と彼女に政治理念の近い政治家の大半は離脱し、現在の国民民主党は希望の党で議席を維持した旧民進党の衆議院議員と、民進党に残っている参議院議員及び地方議員が大半を占める政党です。このように現在の国民民主党は、小池氏が掲げた希望の党の理念を引き継いだわけでもなく、政党としての政策は曖昧です。

例えば原発政策について、国民民主党の中にも原発ゼロ政策に賛同する議員は多くいますが、電力総連などの議員が激しく抵抗して、国民民主党総体としては「原発ゼロ」を言えません。連合など一部の人からは立憲民主党と国民民主党の合流を進める声があります。しかし、原発政策の違いを無視して国民民主党と一緒になることは到底できません。そうなれば立憲民主党をつくった１１００万人のみなさんに顔向けできないからです。

このように重要な政策が曖昧な国民民主党は、「無所属の会」のように勇気を奮って一度解散し、一人一人の政治家の判断で政策理念の近い政党に再び参加する形で再スタートしてほしいと思います。そうした形で、考え方の近い議員や候補予定者が数多く立憲民主党に参加してくれれば、立憲民主党をつくった１１００万人のみなさんの期待を裏切ることなく、政権交代を視野に入れたより大きな政党になれるはずです。

ダブル選挙の可能性

今年は、統一自治体選挙と参議院選挙が重なる１２年に一度の年で、政治的には大きな変化が起こる可能性の高い年です。昨年の森友・加計問題に引き続き、いま安倍政権下の統計偽装問題が大きな問題となっています。こうした安倍長期政権に対して、多くの国民は「うんざり」しています。

しかし、安倍総理はまだ自分の政権下での憲法改正をあきらめてはいません。参議院選で与党が３分の２を割れば現政権の下での憲法改正は不可能となり、同時に現政権は死に体となります。そうなれば、安倍総理は乾坤一擲ダブル選挙で勝負をかけてくる可能性があります。それに対する備えも必要です。

政権交代と原発ゼロのチャンス

ダブル選挙は自民党にとって有利だと言われますが、必ずしもそうとは限りません。過去の選挙の結果を分析してみると、野党が衆参全ての一人区で候補を一人に絞れば、自公統一候補に十分太刀打ちできます。

今年はぜひとも政権交代と原発ゼロを実現する年にしようではありませんか。

「カンパとボランティア」がキーワードの『市民選挙のノウハウ』

「市民選挙講習会」のテキストには、菅直人が初当選した1980年当時の市民選挙の体験をまとめたブックレットを使用しました。選挙に関わった仲間が編集・出版したものです。40年近く前のものですが、昨今のインターネット選挙という視点を除けば、「カンパとボランティア」をキーワードとするノウハウは、参考資料に十分に値します。

市民選挙のノウハウ　検索 CLICK!

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

市民参加型の政党＝立憲民主党を誕生させよう！

今年４月には統一地方選挙、夏には参議院議員選挙があります。

ボトムアップの政治を実現するためには、地方議員を増やす事も重要。それには候補者の努力だけでなく、周りのサポートが鍵になってきます。

これまで政党の多くは業界、宗教団体、労組といった固定的組織の支援を頼りに選挙を戦ってきました。そして政党の支援組織に入っていない大半の国民は「浮動票」とみなされてきました。

しかし、一昨年「枝野立て！」と声を上げ、20日後に「立憲民主党」と投票用紙に書いて下さった1100万人を超えるみなさんは、大半が固定的な政党の支持組織に入っていない一般国民だったと思います。この1100万人の数%の人が、投票だけでなく選挙活動にも参加して下さった時、日本で初めての市民参加型の政党＝立憲民主党が誕生します。

選挙は楽しい政治参加の場

選挙活動には、同じ候補者を応援する人が世代や職業を超えて集まり、仲間となります。楽しい政治参加、社会参加の場となります。ぜひボランティアとして選挙に参加してみて下さい。

Activity Report 活動報告

■ 2月9日《パートナーズ選対キックオフミーティング「選挙を知ろう」》が開かれました。東京のパートナーズが自主運営で、立憲民主党東京都連合と連携して行った学習会です。法律の専門家や選挙の現場をよく知るゲストを招いて、選挙に参加するときに必要な知識を学び、会場は定員いっぱいに。菅直人もゲストとして招かれ、選挙の楽しさを語りました。

■ 今後のパートナーズ選対情報をメールで送ってほしい方は・・・
お名前と「パートナーズ選対情報希望」と書いて、下記宛にメールを。
patosen.info@gmail.com　主催:パートナーズ選対東京

2019年4月21日投票

東京18区 統一地方選の公認予定候補を紹介します

武蔵野市の公認予定候補

深沢 達也（ふかざわ たつや）

オール武蔵野の市政前進

8期目へ挑戦

■1953年 栃木県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒、英国留学。1980年 菅直人スタッフ、1983年 武蔵野市議当選（3期）、武村正義元蔵相政策秘書、2003年 武蔵野市議再選（4期）、2015年 第43代武蔵野市議会議長。

川名 ゆうじ（かわな ゆうじ）

情報 × 対話 ＝「いいね！」倍増大作戦！

5期目へ挑戦

■1959 年生まれ。武蔵野市立境北小(現在の桜野小)、二中、東亜学園高校、東放学園放送芸術科卒。アウトドア、パソコン雑誌、環境問題関連のフリーライター&カメラマン。2003年 武蔵野市議初当選。立憲民主党三多摩地区ブロック長。

くらの えみこ

会社員10年･母親12年･市議8年 すべての想いを議会へ

3期目へ挑戦

■1973 年生まれ。青山学院女子短期大学卒業、立教大学経済学部卒業（3年次編入）、㈱損害保険ジャパン、シティバンク銀行㈱勤務を経て、衆議院議員秘書、2011年 武蔵野市議初当選、2015 年 二期目当選し、厚生委員会委員長、文教委員会副委員長等を務める。

やぶはら 太郎（やぶはら たろう）

まっとうな政治を武蔵野から。

2期目へ挑戦

■1973 年 群馬県伊勢崎市生まれ。1980年 武蔵野市八幡町のスバル社宅へ。武蔵野市立千川小卒業、武蔵野市第四中卒業、東海大学付属望星高校卒業。多種多様な仕事を体験し、システムエンジニアを10年、2015年 武蔵野市議初当選。

府中市の公認予定候補

稲津 けんご（いなづ けんご）

心の痛みが分かる社会へ 府中市をあなたと動かす

5期目へ挑戦

■1968年 府中市生まれ、西原町在住。府中七小、和光中、都立狛江高卒、米･ピッツバーグ大学院修士号取得。1999年以来、府中市議３期連続当選。大学勤務や東北での被災地支援、親の介護を経て2015年に市議４期目に再選。

にしみや 幸一（にしみや こういち）

一緒につくろう 私たちのまち

4期目へ挑戦

■1966 年生まれ、府中市出身。中央大学杉並高校・中央大学文学部卒業。明治大学大学院ガバナンス研究科修了。2007年 府中市議初当選。副議長（2年間）、文教・建設環境の両委員長等を歴任。市内の社会 福祉法人評議員・環境NPO理事も務めている。

須山 たかし（すやま たかし）

みんなでともに創る府中へ（まち）

3期目へ挑戦

■1980 年生まれ。府中市晴見町育ち・在住。明星幼稚園、桐朋小・中・高校、早稲田大学社会科学部卒業。特許事務所勤務の後、政党本部スタッフ、参議院議員公設秘書など国政に従事。蓮舫参議院議員秘書を務めた後、2011年 府中市議初当選、2015年 再選。

前川 浩子（まえかわ ひろこ）

命を守る！ 草の根から

2期目へ挑戦

■1960 年生まれ。府中第六小、第五中、恵泉女学園高、The College of San Francisco Art Institute 卒。府中市議 1 期（2003～2007）、「選挙で変えよう! ふちゅう市民連合」参加、人見自治会防災担当、立憲民主党府中市政策委員。